

オーストラリアの金利引き下げについて

2013年8月7日

8月6日(現地時間)、オーストラリア準備銀行(中央銀行)は定例の金融政策会合において0.25%の利下げを決定しました。政策金利の引き下げは5月以来であり実施後の同金利は2.50%となりました。今回の会合では市場関係者の間で0.25%の利下げ予想が広がっていたことから発表後、オーストラリアドルは買い戻され小幅に反発しました。

《政策委員の世界経済・金融市場に対する現状認識》

金融政策会合メンバーの世界経済等についての現状認識は以下のとおりです。

- ①世界経済について、今年の成長ペースは平均をやや下回る水準にありますが、来年には回復が見込まれます。
- ②商品市況については全般に下落していますが、依然歴史的には高い水準にあり、インフレについては多くの国で緩やかな動きとなっています。
- ③米国では量的緩和の縮小開始スケジュールが示されたことで同国債利回りが異常だった低水準から急上昇するとともに市場変動率が高まり、多くの新興国経済へ影響を与えましたが、金融市場に混乱はみられませんでした。

《景気見通し》

オーストラリアは当面緩やかな経済成長にとどまると予想されます。現在同国の経済成長率は資源開発投資の減少と同調するように過去数年のトレンドを下回る状態となっています。ただ失業率は上昇しておりインフレ率はターゲットと整合的で労働コストも緩やかな伸びにとどまっています。今後為替レートが下落することがあってもこの状況は続くと考えられます。

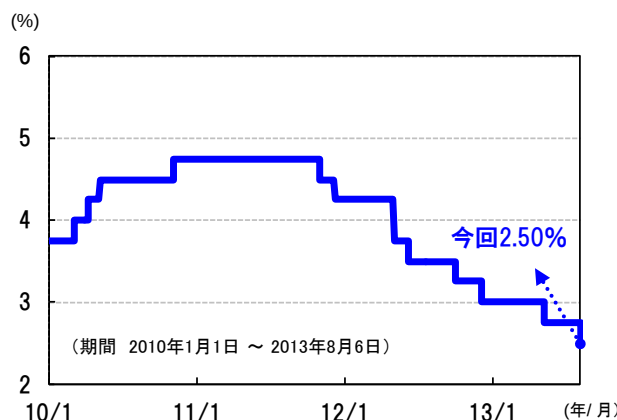
《金利見通し》

政策金利は今回の利下げにより過去最低水準を更新しました。市場金利も同様に低下しています。過去18カ月の金融緩和が金利感応度の高い消費を下支え、資産価値の維持を図ってきました。今回の声明文には、追加利下げを示唆する文言はみられず、当面、同準備銀行は利下げ効果を注視する姿勢をとるものと考えられます。

《為替見通し》

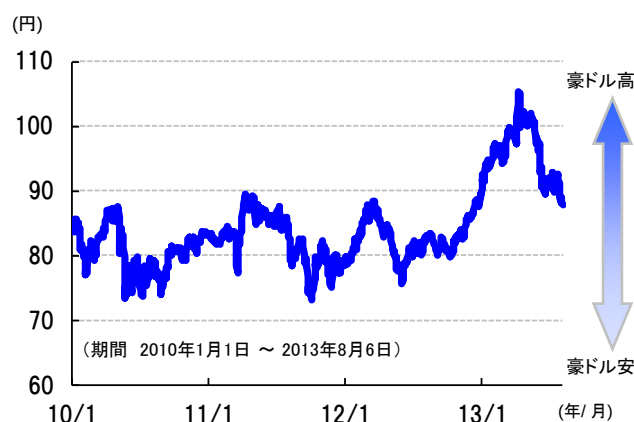
オーストラリアドルは4月初旬から対ドルで10%以上下落しました。これは同国と経済関係の深い中国・東アジア圏の景気の減速、資源開発投資ブームの終焉など、成長率の鈍化予測による資金流出が主因とみられます。オーストラリアドルは依然として追加利下げの可能性が残ることや米国の量的緩和縮小開始時期への思惑などから下値不安は残ります。しかし同国は良好な財政事情を背景とする高格付かつ相対的に利回りの高い国債市場を有し投資先としての魅力度が依然高いことなどが下支えとなり、オーストラリアドルの下落余地は限定的とみています。

《オーストラリアの政策金利の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《オーストラリアドルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。